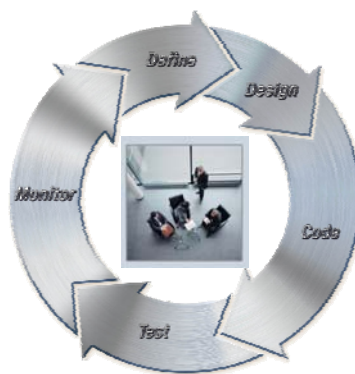



# FORTIFY SCA 導入コンサルティングのご提案



 フォーティファイ・ソフトウェア株式会社



# FORTIFY SCAの導入形態

セキュアなソフトウェアを開発していくための、FORTIFY SCAの導入形態として2つのパターンがあります。

## 1. FORTIFY SCAによる「SECURITY GATE」の構築

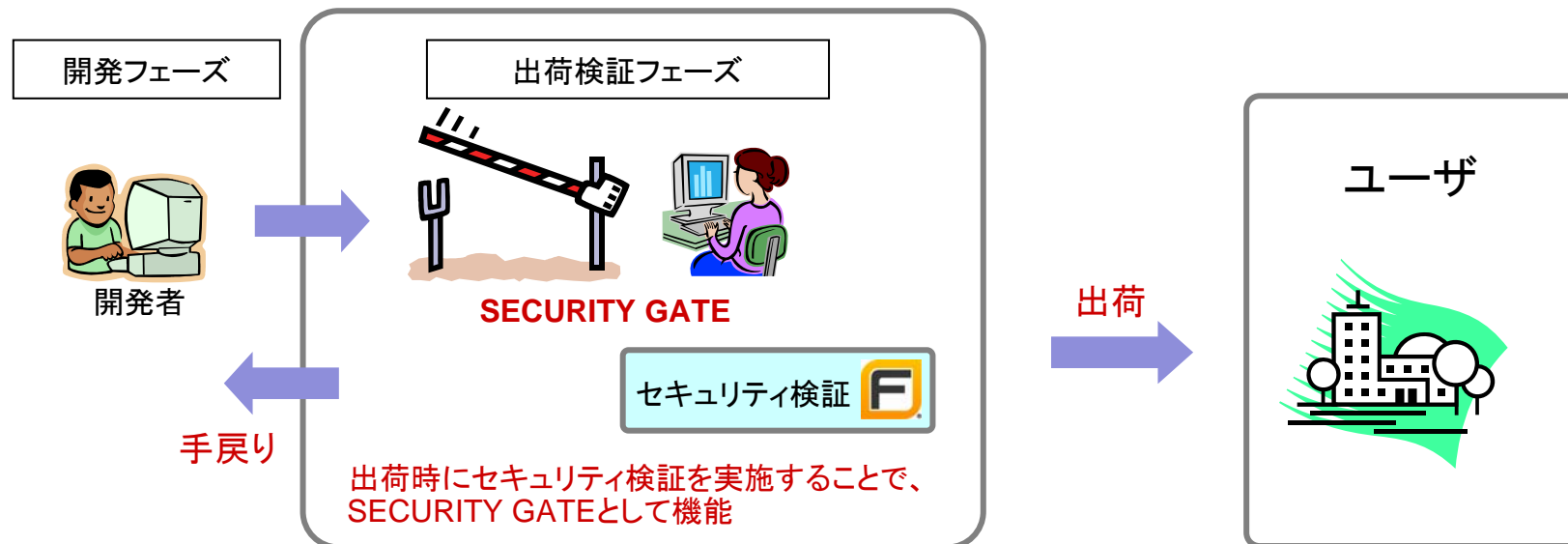
主に協力会社からの受入や出荷検証フェーズに、FORTIFY SCAを利用したソースコードのセキュリティ検証を実施することにより、ソフトウェアのセキュリティを向上する導入形態

## 2. FORTIFY SCAによる「SECURE CODING」の導入

開発フェーズ中にFORTIFY SCAを利用したソースコードのセキュリティ検証を実施することにより、セキュリティを向上する利用方法

# FORTIFY SCAを利用した「SECURITY GATE」の構築

開発フェーズ終了後、出荷検証フェーズにおけるFORTIFY SCAを利用してセキュリティ検証を実施するパターン

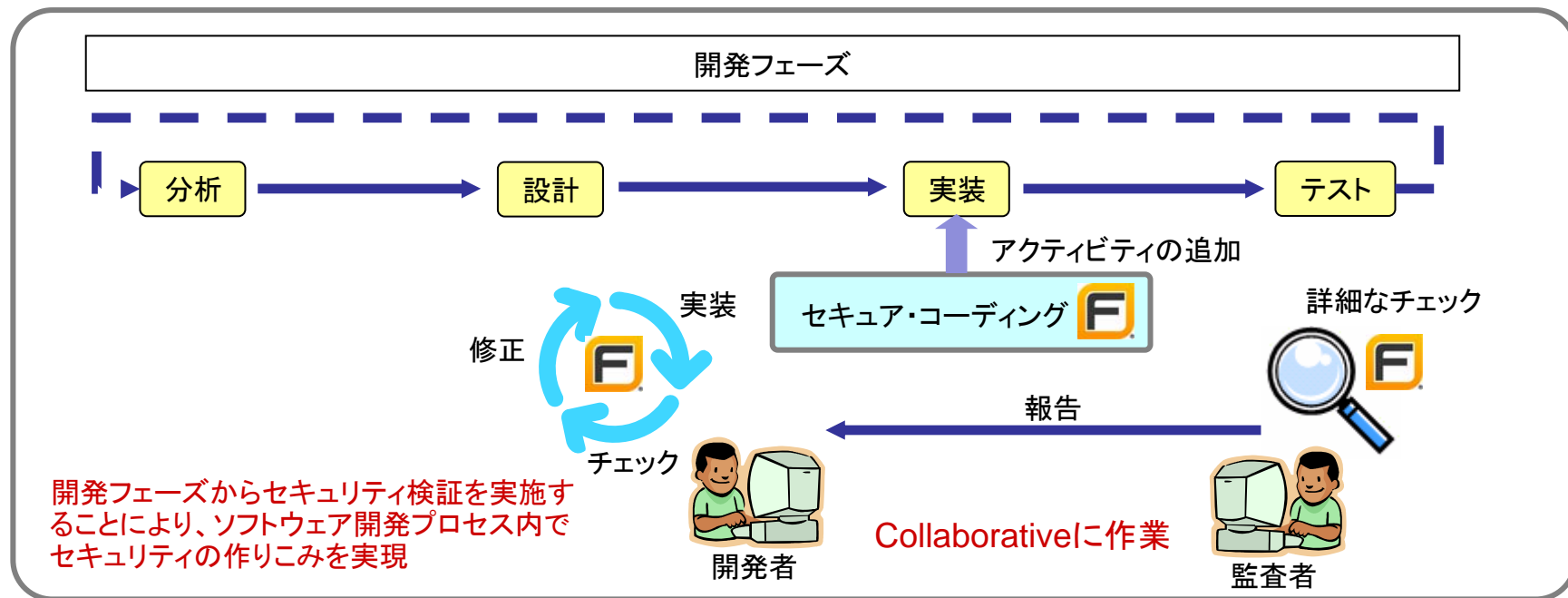


## 特徴

- 開発フェーズを変更することなく導入可能
- 出荷検証フェーズでセキュリティ検証を実施するため問題があった際の手戻りが大きい

# FORTIFY SCAによる「SECURE CODING」の導入

開発フェーズにおいてFORTIFY SCAを利用してセキュリティ検証を実施するパターン



## 特徴

- 多くの人数がセキュリティ検証に関わるため、教育や標準化などのコストが比較的高い
- 開発フェーズからセキュリティ検証を実施するため、手戻りが小さい

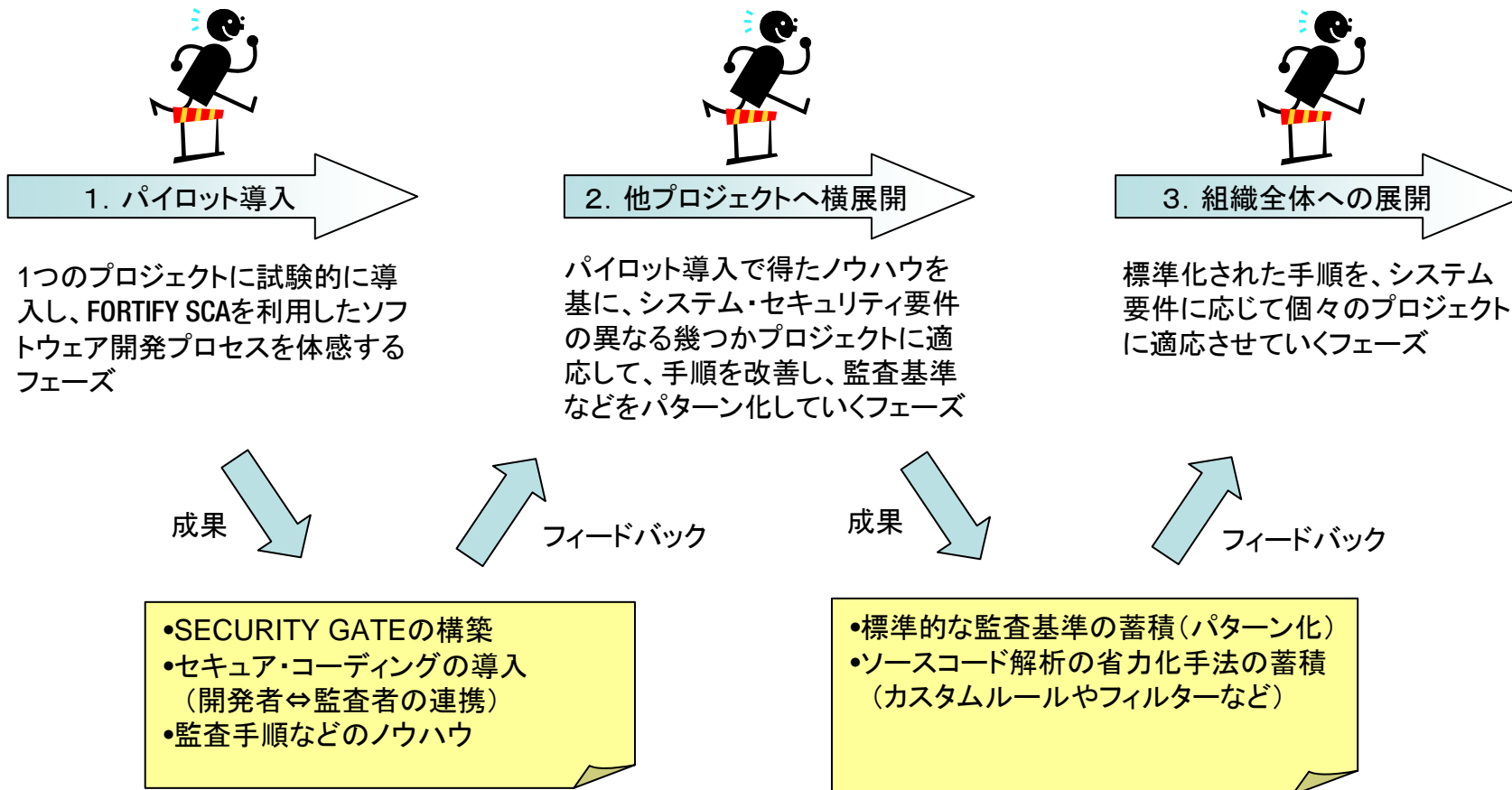
# FORTIFY SCAの導入方法の考察

	「SECURITY GATE」の構築	「SECURE CODING」の導入
導入フェーズ	出荷検証フェーズ	開発フェーズ
導入コスト	検証フェーズで実施するため、少人数でスタート可能で、教育や習熟するためのコストが比較的低い	開発フェーズで多くの人数が関わるため、教育や習熟のためのコストが比較的高い
手戻りコスト	SECURITY GATEで脆弱性が発見された場合、手戻りが大きい	開発フェーズに脆弱性を発見・修正できるため、手戻りが少ない

近年、SI企業は納期に加え、セキュリティの担保をユーザに求められる傾向にあります。ソフトウェア開発プロセスの中に「SECURITY GATE」を導入するだけでなく、「SECURE CODING」を組み入れることで、上流工程での脆弱性の発見が可能になり、手戻りコストが抑制できるため、納期・セキュリティの担保に役立ちます。

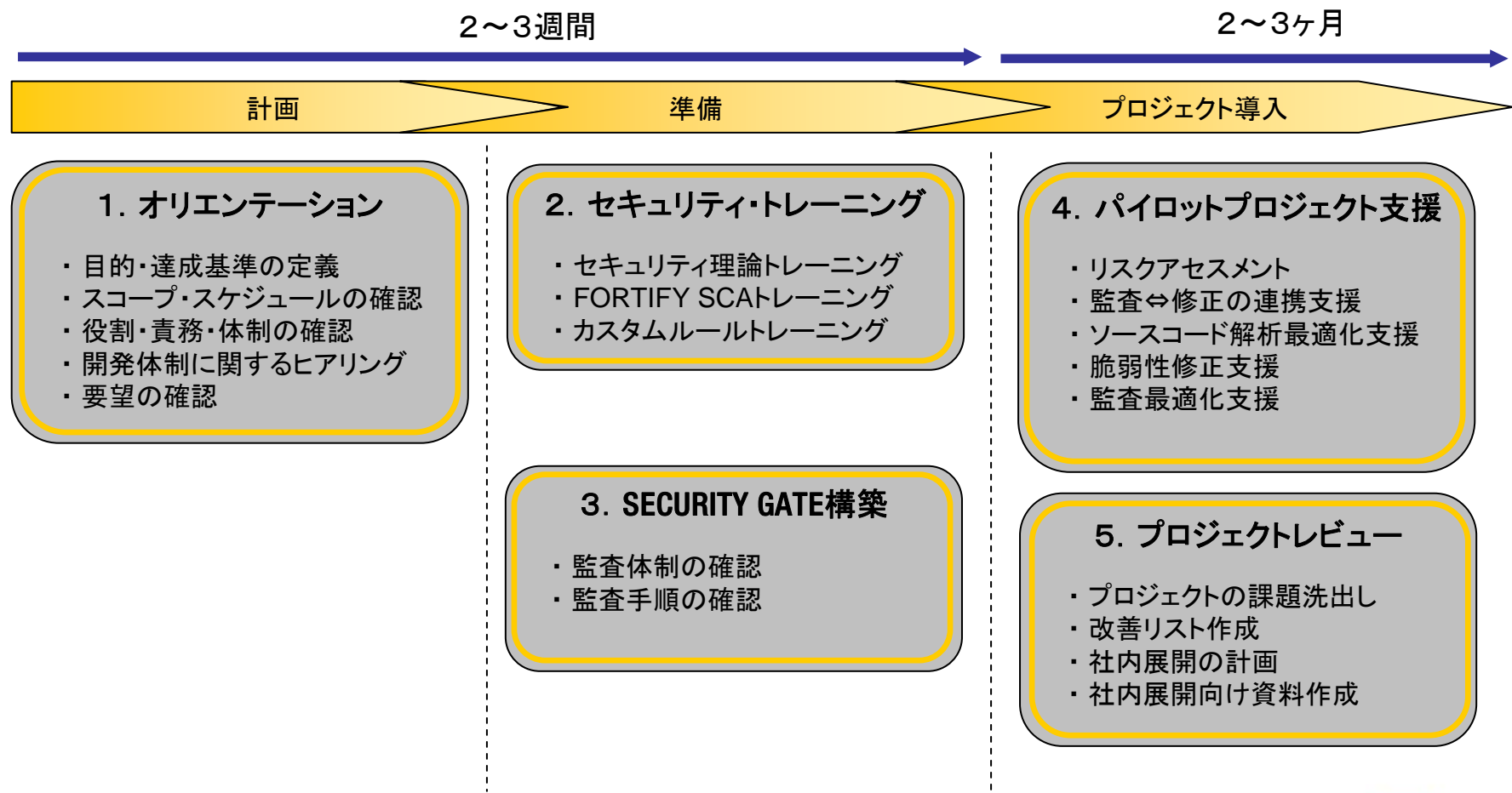
# ソフトウェア開発プロセスへの導入のステップ

ソフトウェア開発プロセスへ導入を円滑に実施するため、まず1つのプロジェクトに試験導入(パイロットプロジェクト)を行い、監査手順などのノウハウを標準化して、組織全体への展開していきます。



# パイロット導入スケジュールのご提案

パイロット導入を以下のスケジュールで実施することにより、混乱を軽減し、導入を円滑に実施できます。

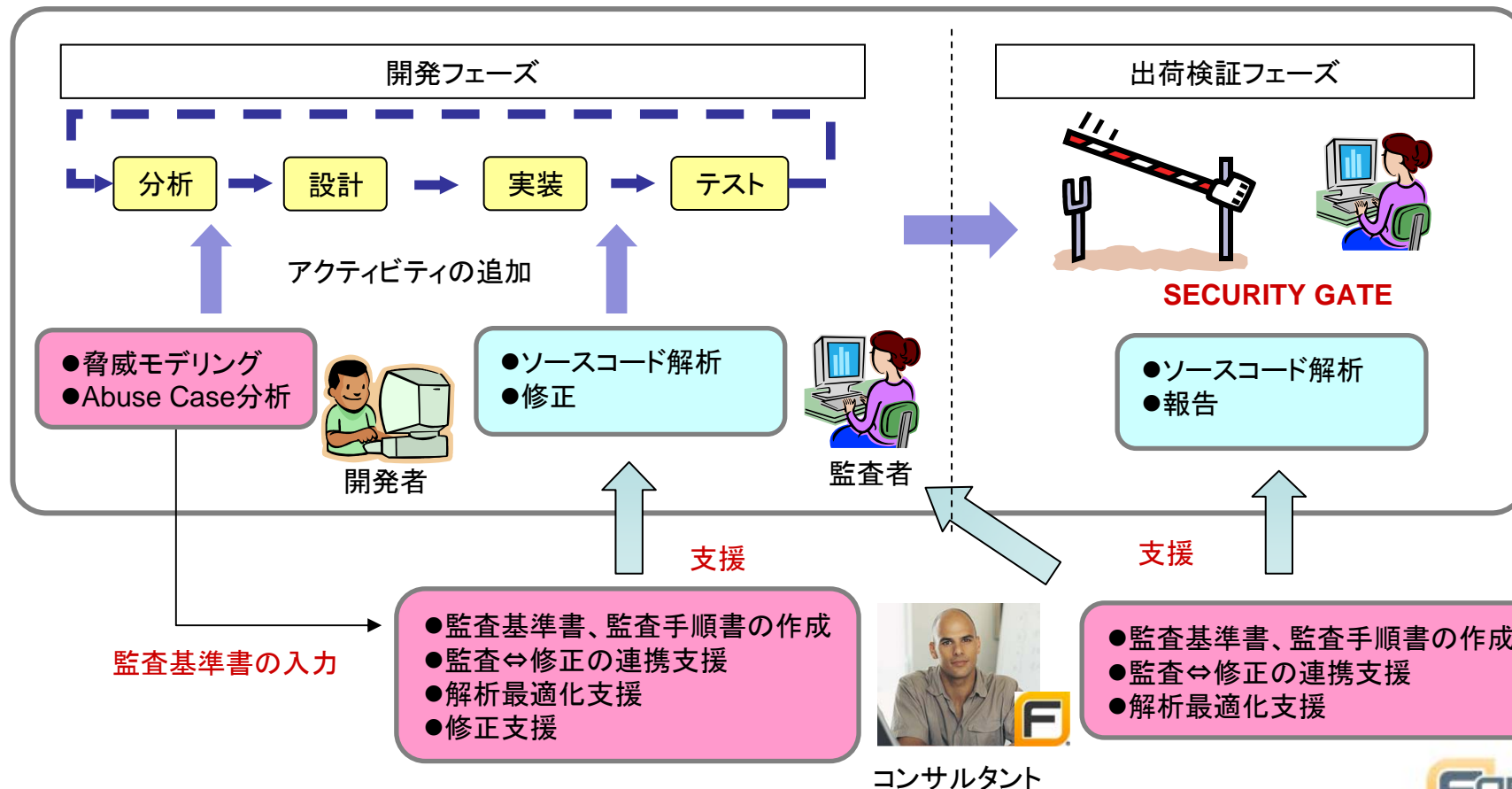


# パイロットプロジェクトの作業分担

パイロットプロジェクトでの作業分担は以下になります。

御社担当作業

フォーティファイ担当作業



# プロジェクトコンサルティングのお見積もり

## 今回のご提案

内訳	費用（税別）	概要
プロジェクトコンサルティング(3ヶ月)	(都度見積)	ソフトウェア開発プロセスへのFORTIFY SCAの導入を目的に、弊社コンサルタントが以下の支援を行います。  ・週一回コンサルタントによる訪問 ・セキュリティ理論トレーニング ・FORTIFY SCAトレーニング ・カスタムルールトレーニング ・メールによる開発プロセスへの導入に関するQA ・監査手順書・基準書の作成

スケジュール・詳細に関しては、今後協議させていただきます

※1: 対応言語: FORTIFY SCA対応言語のプロジェクトになります

※2: プラットフォーム: Windows, Linux, Solaris, Mac OS X